



◀ 2月25日、平成22年3月鹿屋市議会定例会の本会議で所信表明を述べる嶋田芳博市長

人やまち、そして産業が生き生きと躍動する

“元気な「かのや」づくり” に向けて

2月25日に開催された平成22年3月鹿屋市議会定例会本会議で嶋田芳博市長が所信表明を行い、今後4年間の市政運営についての基本的な考え方を明らかにしました。

その内容を一部要約して紹介します。

3 月鹿屋市議会定例会の開会にあたり、平成22年度当初予算をはじめとする諸議案の説明に先立ち、私の市政に関する所信の一端を申し上げ、議員の皆様と市民の皆様のご理解とご協力を賜りたいと存じます。

地方を取り巻く環境は、景気の低迷が長引く中で、百年に一度といわれる世界金融危機などにより、地域経済は大きな打撃を受けているとともに、国・地方の財政環境は、著しい悪化が続くなど、年々厳しさを増している状況であります。

さらには、昨年、市民生活に大きな影響を及ぼす政権交代が行われたところであり、新政権においては、地域の自己決定・自己責任による地域づくりの推進を趣旨とする「地域主権」という考え方で、国のかたちを変える一大改革を行う

こととしてしていることから、今後の自治体には、それぞれの地域の資源や特性を生かした独自の創意工夫が求められており、その取組と成果によつては、地域間の格差が確実に広がっていくと考えております。

市政運営の基本姿勢

このような厳しい時代の中で、私は、市民が、安全で安心して生き生きと暮らし、希望を抱ける地域社会を構築していくことが何より重要であると考えております。

このためには、市民と行政が明確な役割分担のもとで、基幹産業である農林水産業を中心に、地域産業を活性化し、経済力や競争力を高め、自立した鹿屋市を確立していく必要があります。

このようなことから、私は、共生・協働の精神のもとで、人やまち、そして産業が生き生きと躍

動する“元気な「かのや」づくり”を基本姿勢として諸施策に取り組んでまいります。

基本姿勢を支える4つの柱

私は、この“元気な「かのや」づくり”を支える柱として、「対話」「改革」「挑戦」「飛躍」の4つを掲げております。

1つ目の「対話」については、地域の活力を創造する地域主体の市政を推進するため、市民の声が市政に届く「市民が主役の市政」を推進してまいります。

具体的には、

○市民の意見を市政運営に反映させるための、各界各層の代表で構成する市民会議

○私が各中学校区などに出向いて、地域の課題や市の施策などについて、市民の皆様と直接対話する車座会議

する産業づくり”を推進してまいります。

あわせて、「かのやグラウンド・ゴルフ場」や「かのやばら園」などの特徴ある地域の資源・特性を生かした交流の促進による地域活性化を進めてまいります。

これらの産業振興と交流を支える都市基盤の整備や、少子高齢化が著しく進行する中での、医療・保健・福祉の市民生活に直結する分野の強化・充実を図り、市民の安全で安心な暮らしを確保するため、

○主要幹線道路や足元道路、排水路等の整備・充実

○夜間当番医制の存続の危機に対応するための夜間急病センター（仮称）の開設

○お年寄りなどの交通弱者の利便性を確保する地域公共交通の構築の検討

○旧3町地域の地域振興について語り合う「地域再生会議」
の設置など、市民総参加のもとで市政運営を進めてまいります。

2つ目の「改革」については、市民の安全・安心な暮らしの確保や産業の振興を図るためには、財源の確保が何より重要であることから、企業経営者としての経験を生かしながら、徹底して無駄を省き、効率的で効果的な行政運営を行う、「透明・迅速な市政」を推進してまいります。

具体的には、

○特別職報酬の見直しや職員定数の適正化などによる総人件費の抑制

○市民の目線に立ち、事業実施の必要性等を判断する外部評価による事務事業仕分け

○サービス業としての市役所づくりをするための職員意識改革

に取り組むなど、行財政改革を断行し、中長期の健全財政の堅持に努めてまいります。

具体的には、

○安全・安心・健康な「かのやブランド」の確立に向けた農林水産業の振興

○環境にやさしい日本一の畜産団地の創造

○地元で生産される農産物を原料とする製造業・加工業の強化

○私自らがトップセールスを実行するとともに、地産地消を推進することにより、人が集い、心を潤す商店街づくりや商業の振興

など、関係者の皆様方の声を反映した「地域を元気に